

医療事業拠点を開設センター

東海部品工業 下請から完成品メーカーへ

東海部品工業(本社・静岡県沼津市、社長・盛田延之氏)が、医療用機器の完成品メーカーとして歩みを進めている。昨年12月に関東経済産業局と厚生労働省より中小企業の技術連携支援政策「新連携計画」のコア企業として、「救急時携帯用人工呼吸器の開発と事業化」の認定を受けた。今年1月には、医療事業の営業拠点となる修善寺メディカルリサーチセンターを開設。人工呼吸器「QQセイバー」の本格販売に乗り出し、100億円市場に挑戦する。

「新連携計画(異分野連携新事業分野開拓計画)」マ(株)(同市)が連携して実現した。

「新連携計画」に基づき関東経済産業局が推進する政策。同社を核として、プラスチック部品開発の柳松浦製作所(静岡県富士市)と医療一、関東経済産業局と厚生

だ。施設内には、空気中の清浄度を一定に保つクリーンルームを設置。医療製品の梱包作業に対応する。

同社は、医療品質規格ISO13485のほか、第一種医療機器製造販売業許可を取得。現在、天城工場において、手術用器具・イ

ンプラントを医療メーカーから受託生産しているが、これら製品も「自社ブランド」として製品展開できる環境が整ったことになる。

盛田社長は「下請け企業から完成品メーカーへ飛躍する。輸入品に苦しむ国内部品メーカーにとって、医

療機器は「人を守って国を守る」市場だ。当社初の完成品である「QQセイバー」は、AEDとともに学校、運動施設、公共施設への設置・普及を目指す」と語る。

元来、同社の主力は、沼津工場で生産する自動車向



新設の修善寺メディカルリサーチセンター



医療機器等のチタン製品群

け冷間圧造品。医療部品に必要な切削技術の知識は、従業員皆ゼロからのスタートであった。医療部品の他、マイクローネじ、農業事業の生産拠点でもある天城工場は、自然に恵まれた山間に位置する。盛田社長の「自然との共生。感性を養う」理念のもと、30人のスタッフが切磋琢磨して現在の知識・技術を築いた。

豊かな自然のもとで、不況に挑戦する同社のもとには、国立大出身の工学博士、大手自動車メーカー出身、はたまた別畑出身の若者が、夢を求めて門戸を叩いている。人を救う医療機器が、地元静岡を救い、日本を救うことができるか。同社の新事業は、はじまったばかりだ。